

平成25年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 学力の充実向上</p> <p>2 希望進路の実現</p> <p>3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成</p>	<p>1 少人数講座・選択講座の拡大等、柔軟な教育システムを展開しているが、小規模校の特性を生かし、個を的確に把握しながら、さらにきめ細かな教科指導を行い、進路指導を充実させる。</p> <p>2 キャリア教育については、第一学年次の「総合的な学習の時間」を新たに開始したが、更なる改善をしていくため、分掌・教科間の連携を強化し、組織的に取り組む。</p> <p>3 地域社会から、さらに信頼されるために、挨拶・服装・マナー等、規範意識に関する指導を強化し、社会性や責任感を身に付けた生徒を育成する。</p>	<p>1 基本的な生活・学習習慣を確立させるため、組織的な取組を推進し、質の高い学力の保障と進路指導を充実させる。</p> <p>2 地域の人材を積極的に活用し、事業所等と連携したキャリア教育を推進する。</p> <p>3 集団生活の意義を認識させ、社会に有用な人材としての人間性を育成する。</p> <p>4 地元小・中学校との連携を強化し、生徒募集につながる広報活動を積極的に行う。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織運営	計画的・組織的な運営	各分掌が担当業務の年間計画を系統的に立案し、部長会議で連携を深め、課題を共有化することにより協働体制を強化する。	B	B	部長会議で共通理解は図られるものの、分掌間の連携をもっと推しすすめる必要がある。計画的な研究授業や自主的なオープン授業を実施しているが参加者が少ないことが課題である。
	教職員の資質能力の向上	若手教職員の増加に対応して、ベテラン職員の経験を活かした職場内でのOJTを推進し、相互に学び合う機会を増やし、若手教職員等の育成を図る。	C		
教育課程の編成と実施	全ての生徒が、「自信」と「誇り」を獲得できる学習活動の創意工夫	シンプルでありながら、かつ、幅広い進路希望に 応える教育課程・教育計画を策定する。	B	B	普通科・森林リサーチ科の特色を融合させた教育実践は、その初年度として、大きな成果をあげた。特に、学校評価アンケートにおいて、平成25年度入学生の9割超が、「北高は魅力的である」「学校が楽しい」と肯定的に回答している点を評価する。
		普通科・森林リサーチ科の特色を融合させた 「北高独自の学びスタイル」を構築する。	A		
学習指導	学校評価・授業評価アンケートにおいて肯定的な意見平均アベレージ80%以上の達成	知的好奇心をくすぐる授業授業内容と授業規律の徹底を両立させた「授業から始まる生徒指導」を実践する。	B	B	学校評価アンケートにおいて、「授業の満足度」「授業中の雰囲気」「先生の説明に関する満足度」に関する質問に全校生徒の8割超が肯定的に回答している点を評価する。 本校では、この項目にA評価はないと捉え、充実した高校生活を原動力として高校卒業後の進路を切り開く青年を育てるため、常に、教師が自らの教育実践について、成果と課題を明らかにし、次年度以降も、謙虚に学校改善・授業改善に取り組むことを肝に命じている。
		教師が生徒を直接、指導助言する時間を倍増させる教育環境を創出する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路指導	キャリア教育に基づく3年間の系統的、計画的な進路指導の充実	社会性や責任感を身に付けさせるため、キャリア教育の一層の充実を図る。 ----- 地域と連携した取組を行う。 ----- 教員研修の一層の充実を図る。	B	B	それぞれの具体的方策については一定の成果を見ることが出来たが、生徒や教員が「その気」になるというインセンティブやモチベーションの刺激に課題が残る。次年度はさらに具体的な支援方策を練り、生徒教員が自ら学ぶ姿勢を作れる工夫を行う。
	生徒一人一人を的確に把握した上での希望進路達成支援	実力テスト、模擬試験の分析を充実する。 ----- 生徒個々に応じた進路相談の充実を図る。 ----- 資格取得、学習時間促進の意識化を図る。	B	B	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と社会性・規範意識の養成	物事の善悪を正確に理解することで、正しい判断力を身につける。 ----- 規則違反やマナー違反・不正を許さず、生徒全員が気持ち良く生活できる学校を目指す。 『あいさつ』『時間を守る』『身だしなみを整える』といった当たり前のことが、ごく自然にできるようになる。	B	B	問題事象に迅速に対応することで再発防止に務めることができたのは評価できる。 遅刻や服装頭髪の指導について、若干の甘さがあったかもしれないが該当生徒はその指導の意味を理解できているので一定の効果はあった。 校内や通学時に大きな事故はなかったが、特に自転車についての交通安全指導を強化していかなければならない。
	心身の健全な成長発達をめざした安全教育の充実	自他の健康に留意することで、命の大切さを理解する。 ----- 家庭・地域等と連携し、交通安全教育の充実を図る。	B	B	
特別活動	自主的活動の充実と積極性の養成	生徒会行事に意欲的に取り組むことで、主体性や創造力を身につける。 ----- 生徒が部活動に真剣に取り組めるように、環境整備に努める。	A	B	生徒会行事について、生徒主体の運営がなされたことは評価できる。 部員数減に伴う部活動の在り方を議論することができなかった。
人権教育	人権に関する生徒の知識や理解の深化、及び差別や人権侵害を許さない実践的態度の養成	学年との連携を密にし、人権HRを効果的に行う。	B	B	人権HRは学年と連携し、予定どおり実施できたが、3年生2学期の内容や総時間数等については、検討の余地がある。 教職員研修は一度だけ実施したが、広報が不足していた。
	教職員の人権に関する知識や理解力及び指導力の向上	教職員人権研修会や広報などを行う。	B	B	
健康・安全教育	教育相談、特別支援を要する生徒への指導の充実	スクールカウンセラー等の活用などにより教育相談活動を充実させる。 ----- 発達障害についての理解を深め教科担当、担任、家庭等と連携しより適切な指導援助を行う。	B	B	カウンセリングが必要な生徒に利用を促す働きかけが不十分であった。 職員研修等による教職員の意識向上を十分に図れなかった。 健康指導において生徒・家庭との連携ができていない部分があった。 掃除内容を重点化する等工夫の結果意欲的に取り組む姿がみられた。 保健だより・保健局だよりに加えて食育に関する壁新聞等による発信ができた。
	保健管理、保健教育の拡充と充実	健康診断結果等に基づき健康指導の充実を図る。 ----- 清掃指導をとおし、美化意識の向上と奉仕の精神を養う。 ----- 実態に応じた保健学習や保健だより等により自ら考えて健康で安全な学校生活を送れるようにする。	B	A	
家庭・地域との連携	P T Aの充実と発展	各種事業の精選と会員へのP T A活動への積極的な参加を促す草の根啓発活動の取組を行う。 ----- ※草の根運動（学年団単位の取組の強化） P T A活動を通して子ども達の心身の健康を育む取組を展開する。	B	B	総会などの出席率は昨年並みに推移した。各学年の取組については全学年実施。小集団での取組の重要性を確認できた。 街頭での交通指導や焼きそば・豚汁提供などの活動は生徒達と交流でき今後も継続すべきである。 連携会議継続開催、研究会の開催が実現できた。また、副会長の輪番を確認し組織強化を図れた。
	地域連携の推進	北桑田小・中・高P T A連携会議を中核にし通学圏内の教育課題を共有化し、その改善に向けた取組を行い北桑田高校の充実、発展に繋げる。		A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
学校図書館	図書館の有効活用	進路指導・進路学習に関する資料を積極的に紹介するなどの支援を進路部と連携して行う。 生徒の知的好奇心をより充足させるため授業内容、行事にあわせた資料・情報の積極的な紹介や提案を行う。 図書館教育会議や教職員研修の実施により図書館の活用に関する検討や情報発信を行う。	B	B	進路や行事にあわせた資料紹介については十分には取り組めなかった。また教職員研修についても実施できなかった。 朝読の年2回実施、読書月間などの取組により読書意欲の喚起に努めたが、利用者は一部にとどまり、貸出も伸びなかった。
	読書活動の推進	朝読の実施、展示や広報により読書意欲を喚起する。 PTAや小中学校図書館など地域と連携して読書の環境づくりを行う。	B	B	
第1学年	基本的生活習慣・態度の確立	授業規律を確立し、集中できる学習環境を整備する。挨拶・言葉遣い等の礼儀指導と各種規則を遵守する態度を育成する。	B	B	おおむね落ち着いた環境で集中する授業はできているが、講座によっては少し甘い場面も見られた。 早期から具体的な進路目標を設定させる取り組みを積極的に行い、生徒の意識を高めることはできた。 部活動を積極的に行うことを含め、学校生活に満足している生徒は多い。
	学習指導の充実と自主的な活動への支援	目標を持たせ、自主的に学習する態度を育成する。 各分掌・教科との連携を密にし、部活動への積極的参加の呼びかけと生徒の学習状況の把握し、早期の支援体制を確立する。	B	B	
第2学年	北高生として望ましい生活態度・学習態度の育成と、学年集団としての成長	けじめのある学校生活を送り、他者の気持ちを理解しようとする生徒を育てる。 各教科担当との連携を密にし、学習状況を把握し希望進路の決定に繋げる。 学校・学年行事等への積極的な参加態度とともに充実感をもてるように指導する。	C	B	個人差は見られるものの学年全体として成長は見られると感じている。 学習計画表の活用や進路HR、複数回の面談を実施を通してさらに進路への意識づけができた。 研修旅行をはじめとして生徒の自主的な活動が根付いてきた。 毎月の学年通信により担任団からの発信はできた。来年度に向け生徒や保護者の思いを反映できる学年通信にしていきたい。
	保護者との連携強化	様々な機会を積極的に利用し、保護者と情報交流を行う。	B	B	
第3学年	希望進路の実現	進路指導部や保護者と連携を密にし、希望進路が実現できるようフットワークを軽くし、進路決定100%を目指す。	B	B	進路決定については若干の未決定生徒が出てしまい、残念ながら目標は達成できなかった。 最上級生として下級生の模範となるような行動を心掛けることができた。行事などでも自分で考え自分で行動することができた。
	あたりまえにできることを当たり前前にこなせる心の育成	最上級生として下級生の模範となるよう遅刻、無断欠席、中抜けなどを少なくする。 授業の一時間を大切にし、集中して学習できる落ち着いた学習環境を整えるため、教室の清掃や整理整頓を徹底する。	B	A	
農場部	効率的な農場運営と魅力ある森林リサーチ科の取組の充実	各種研修の充実と情報発信の充実 完成度の高い作品の創作と技術の養成 適切な農場管理及び演習林管理	B	B	教員の資格取得は計画的に進んだ。 新しいレーザー加工機が導入されて、作品の精度があがった。演習林の管理は普通科とのコラボなどもとりいれて適切・計画的に進められた。 農ク実績はあがった。中国研修は困難ななかでもやりきった。
	生徒の希望進路実現に向け誇りの持てる学科「みがく」かがやく」の実践	各種資格試験や農ク活動で実績を上げる。 授業、放課後の進路補修により進路意識の高場に努める。 林業教育による目標達成、課題解決力の養成	B	A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
寮務部	円滑な寮生活を送るための、規則、ルールの徹底	愛情ある指導を行い、規則厳守の徹底をする。寮生との対話を充実させ、学習習慣の定着に努める。	B		寮全体でみれば規則・ルールは守れていたが、個々の生活習慣の向上が必要。急速に老朽化している設備充実が課題。業者との連携を図り、安全で美味しい食の提供は図れた。寮生徒との対話は充実出来たが、舎監相互の連携の充実が必要。学習習慣の定着が課題。
	安全で安心して生活するための寮生保護者・各分掌との連携強化	寮生活に関する情報の共有化に努め、舎監相互の連携に努める。業者（調理委託会社）との連携に努め、定期的な食事内容の検討にも努める。登下校時の通学安全の確保及び、地域との連携	B	B	
	生活環境の維持及び施設の充実	施設、設備の点検、改善を行い、環境整備充実にも努める。	C	B	
事務部	魅力ある学校づくりを推進するための積極的、効果的な予算執行	理科棟耐震補強工事が安全に施工できるよう工事監理者、施工業者と連絡調整して、安心・安全な教育環境作りを目指す。分掌、教科等の教育目標に配慮し、適正で積極的、効果的な予算執行を行う。	A	B	教職員、関係分掌及び教科担当者 と適宜、連絡調整して協力を得ながら、ほぼ授業に支障なく安全に耐震補強工事を完成することができた。分掌、教科等の要望を聞いて効果的で適正な予算執行ができた。懸案のL.L教室、テニスコートの改修、理科老朽備品の更新や寄宿舎設備の改善を行った。学校運営の情報を事務室で共有化し、役割を担って学校行事に参加した。事務室からの発信もしたい。事務業務の改善に止まり、学校全体への提案までには至らず。前例に捕らわれぬ継続した点検作業が必要。
	学校運営への積極的な参加	教務部会議、進路指導部会議及び農場会議に参加して学校運営の情報等を事務部で共有化し、また、連携を強化して必要な教育環境の改善と充実を図る。学校業務の改善に向け、日常的に事務業務の点検を行う。	B	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>① 若手教職員の育成、教職員同士の様々な機会での連携等をさらに充実することにより、学校全般の経営向上に努めていただきたい。</p> <p>② 少子化及び高校進学先の広域化、多様化により、生徒数確保が厳しい状況となっている。進路決定上、部活動の充実は大きなウェイトを占めており、近隣小中学校とも連携し、思いきった見直しの必要がある。</p> <p>③ 府内唯一の森林リサーチ科の充実した取組は高い評価に値する。今後も京都フロンティア校等の取組を通じ、普通科をも巻き込んだ、特色ある学校経営を推進いただきたい。</p> <p>④ PTA活動を通じ、地域、家庭、近隣他校種PTA等々との連携充実が図られている。さらに裾野を広げるべく、今後も継続した取組を実践願いたい。</p> <p>⑤ 森林リサーチ科を中心として、通学圏が広域に及んでおり、寮機能の充実が必要不可欠となってきた。府教委の全面的な理解と支援による施設充実を期待するとともに、生活面の指導についても更に強化いただきたい。</p> <p>⑥ 全般にわたり、校長を始め教職員の皆様の弛まぬ努力により、きめ細かい、良好な学校経営がなされていると高く評価している。本年度、一部低評価をされているところについては、次年度以降の課題として捉えて、更なる充実発展を期待する。</p>
-------------------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<p>① 地元中学生、保護者のニーズを的確に把握して教育改善に努め、地元中学からの志願率を増加させる。</p> <p>② 今年度指定の「学力向上フロンティア校」の取組を継承し、更に発展させることで生徒の学問への意欲・関心を高める。</p> <p>③ 次年度、類・類型の廃止による普通科教育課程の改編が完成年度を迎えるにあたり、配置科目、開講講座等について検討する。</p> <p>④ 本校の教育課題解決に適切に対応するため、各分掌の役割分担を明確化してより組織的に業務を遂行する。</p>
---------------	--

